

壊れゆく“若者たち”

『File.46 デジタル症候群～受験勉強もSNSで行う時代』

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

今年の受験シーズンも中盤を過ぎ、毎年ながら悲喜交々です。そんな大変な受験勉強も、すっかり様変わりしてきました。それはSNSを利用する学生が増えているという点です。SNSとはLINE、Facebook、Twitter、Instagram等のことを指しており、日本においては利用者が2017年末に7200万人に達しています。日本国民のうち、7割以上が利用しているという点で、明確な情報インフラ化していると言えます。

そんな学生の勉強の仕方でもSNSの中の「勉強垢」の利用が増えてきています。そもそも「勉強垢」というものをご存知でしょうか。「垢」とは「SNSのアカウント」を指しています。最初に「勉強垢」が流行ったのは2016年の冒頭で、利用者の8割以上が高校生です。投稿内容は勉強した科目や時間や志望大学、点数や偏差値等々受験に関するもので、モチベーションを維持する方法として利用されています。さらにそれだけではなく、問題の解き方がわからない時に「#勉強垢」と記載して求めたり、問題文を写真にしてInstagramに投稿することで、解き方を返信で教えてくれたり、解き方の写真が送られてくるケースもあるという点で、非常にポジティブな利用のされ方をしています。

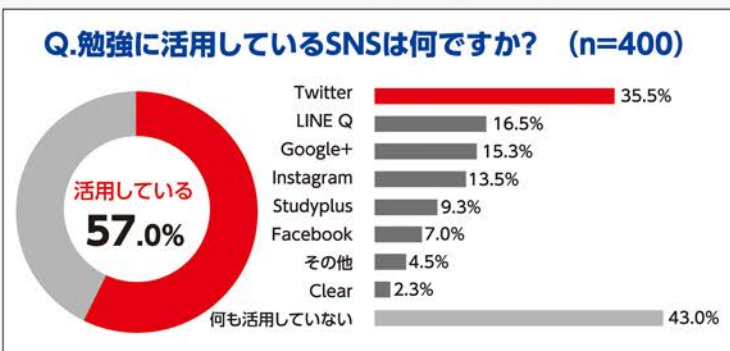
その他にYouTubeを利用して

勉強する学生もいます。これはかつて受験を経験した講師役が過去問や問題の解き方を独自でホワイトボードに書き出しているような動画なのですが、その内容のクオリティは高いようで、中には「学校や予備校よりもYouTubeに出ている講義のほうが分かりやすい」というコメントもあるから驚きです。学生は自分の疑問を解決できる人から信頼できる回答を得たがっています。対面での勉強が全てでは無くなっているのです。コミュニケーションの形が多様化する中で、かつての考え方では理解できないような手段が飛び交っています。このような形で情報が手に入るのは、とても便利なことですが、これだけ必要な情報が必要なタイミングで手に入る現代において、試験の際に、一時的な記憶を頼って回答するようなペーパーテストは陳腐化している感も否めません。勉強の仕方がこれだけ形を変える時代であることが



Profile
東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。
（株）グッドクロス取締役COO
長年コールセンター運営に携わり、人と人のコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。
becall1031642012088
[http://www.becall.jp]

ら、勉強したことをどのような形にしていくのかも変わっていくのかもしれない。



出典:「受験生に関する実態調査」 代々木ゼミナール2017年